

事業実施報告書

海でマインドマップ教育プロジェクト

2020年3月31日



●海でマインドマップ教育プロジェクトについて	・・・	p. 2,3
●実証実験の実績サマリー	・・・	p.4
●ワークショップについて	・・・	p.5～9
●ワークショップツール解説	・・・	p.10,11
●体験ツアーについて	・・・	p.12
●PR実施報告	・・・	p.13～16
●実証実験レポート、レポート写真	・・・	p.17～49
－ワークショップ	・・・	p.17～45
－体験ツアー	・・・	p.46～49
●2020年度以降に向けての方針	・・・	p.50

海でマインドマップ教育プロジェクトについて (1/2)

概要	ウェビングマップを仕事の中に取り入れ、鮮魚を扱う飲食店を展開する四十八漁場「エー・ピー・カンパニー」の協力で制作、実施。 子供たちに楽しく深く、海についての学びを促していく。
実施目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの、魚を通じた海洋問題のアクティブラーニング ・子どもたちに海洋問題を「自分ごと化」してもらい、まず今自分が出来ることを考えて実践し、将来、海洋問題に取り組む人材に育成。
場所	学童クラブ、小学校、児童向けイベント施設
時間	平日または休日、60分間～120分間
対象	小学生（低学年以上）、中学生以上の学生も可
集客方法	大々的に集客を行ったわけではなく、学童クラブや小学校などに直接お声掛けさせていただき、その施設にいる児童に対して実施。
伝える内容 (具体的な学び)	<ul style="list-style-type: none"> ・魚を起点とした海洋問題（海洋資源の持続可能性や地球温暖化、海洋ごみ等）の構造的な理解 ・ウェビングマップを利用した情報整理や論理的思考の方法を習得 ・海洋問題に対して自分は何ができるか（個々に考えさせる）
伝える手段	<ul style="list-style-type: none"> ・体験要素を加えたウェビングマップワークショップ ※ウェビングマップによる学習は、四十八漁場のアルバイト教育で、魚を学ぶ際に用いられており成果を出している。その実績のあるウェビングマップ学習を、子供向けにアレンジ。



海でマインドマップ教育プロジェクトについて (2/2)

<p>ワークショップで得られる成果物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの作るウェビングマップ ・子どもたちが自分が海洋問題にできることを書き込んだ宣言シート
<p>納品成果物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、人数、時間に合わせたウェビングマップのプログラム ・ツールキット（ウェビングマップや宣言シートのフォーマット、8コマ漫画） ・イベントレポート（子供作のウェビングマップ&宣言シートの写真含む） ・事業公式ホームページ
<p>PR方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公式ホームページ ・Twitter ・科学センター・ハチラボでの展示 ・四十八漁場の店舗でのポスター展示 <p>※取材はコロナウィルスの影響で取材予定だったワークショップの開催が中止になったため、実施できておりません。</p>
<p>本実行委員会の幹事企業「エーピーカンパニー（四十八漁場）」のモチベーション</p>	<p>エーピーカンパニーの企業理念である『食のあるべき姿を追及する』を居酒屋の営業活動だけでなく、子供達に食を通じて学びを提供することが啓蒙活動になり、食材の尊さや価値を伝えて世の中の価値観を変えていく。持続可能な食のあるべき姿を今回のようなワークショップを通じて店長やスタッフが消費者とともに学び、考える。</p> <p>将来的には、店舗を、お客様とともに海の問題を学び高め合うプラットフォームにしていくことで、他の飲食店との差別化を図る。</p>



実証実験の実績サマリー

	回数	合計参加人数	参加学年
ワークショップ	15回	241名	小学1年生～中学3年生
体験ツアー	1回	14名（子ども7名、大人7名）	小学1年生～3年生

<共有事項>

以下の4回の実証実験イベントはコロナウィルスの影響で中止判断。

- ・ 湘南学園小学校アフタースクール（対象は小学低学年）、ワークキャンプTOPPA Leaders（対象は大学生）でのワークショップ
- ・ 放課後スクールMOCOPLA、大豆戸すこやか学童クラブの子どもが参加する予定だった体験ツアー

ワークショップについて (1/5)

※実施レポートはp.17~45に掲載しております。

●ワークショップの内容概要

発想を膨らませる

最初に「海」についてのウェビングマップを広げていきます。クイズ形式で海についての情報を教えたり、子どもに海について質問することで枝を伸ばしやすいう手助けをしながら、個人、もしくはグループで一つのウェビングマップを完成させます。言葉を書いたり、絵が得意な子は絵を描いたり、紙の上で自由に発想を広げてもらいます。



見て体験する

実演をしながら、今海にどんな問題が起こっているかを知ってもらいます。

<海洋資源の持続可能性>

- ・魚の成長スピードを考慮せずに魚を獲り過ぎると海の中の魚がどうなるか？



<地球温暖化>

- ・海水温が上がると海に住む魚や卵はどういう変化が起きるのか？



<海洋ごみとマイクロプラスチック>

- ・海洋ごみやマイクロプラスチックはどういう物なのか？
- ・魚の内臓から何が出てくるのか？



理解する

それぞれの問題がどういった背景、プロセスで起きていて、その結果、魚や人間にどういった影響が生じているのかをコマ漫画を使って解説し、理解してもらいます。

学んだことをウェビングマップに書いてさらに言葉を繋げていきます。

自分ごと化

日常生活の中で自分に何ができるかを考えて紙に書いてもらい、最後は寄せ書きのように模造紙に貼ってもらいます。

(発表したい人に書いた内容について発表してもらいます。)



ワークショップについて (3/5)

●人員

講師一人、スタッフ1~5名(参加人数によります)、裏方1名

<役割>

○講師

- ・イベント全体の進行(ウェビングマップの解説、パワーポイント情報の解説、等々)
- ・8コマ漫画の解説
- ・子どものウェビングマップ作成フォロー

○補助スタッフ

- ・事前準備・片付け
- ・子どものウェビングマップ作成フォロー

○裏方スタッフ

- ・メイン講師に必要となる道具、子どもに渡す資料等の整理・配布準備、片付け
- ・8コマ漫画解説時のフォロー
- ・子どものウェビングマップ作成フォロー

※グループワーク方式の際は一グループに一人スタッフが付くようにします。

●講師とスタッフを行う際の工夫点

・講師として話す人間を変えることで、子どもたちが飽きにくいようにする。

・講師に興味を持ってもらうためにキャラクター設定をする。(全スタッフにキャラクターを付ける必要は有りません。)

例:8コマ漫画を解説する人は海の環境に詳しい人である前提で紹介する、等です。

※上2つについて、私達の行ったワークショップでは、メインの講師、海の環境に詳しい人、四十八漁場で実際に働いている人、の3つのキャラクター付けを行ってパート毎に進行する人間を入れ替えていました。

・手が止まっている子どもがいるときは「～(枝に書いている言葉)といえバ?」という問いかけを行い、子どもが枝を伸ばすフォローを行っていました。

・特に低学年の子どもにおいて、どうしても騒いでしまう子どもがいる場合があります。その際にはスタッフ一人がその子に付きっきりになるか、イベント先の職員の方に手伝ってもらう等しっかり面倒を見る必要があります。スタッフがつく場合は誰がつくか事前に決めておくが良いです。

ワークショップについて (4/5)

実際のワークショップでは、人数や時間、学年によってその都度イベント内容や時間配分をアレンジする必要があります。

<人数、時間、学年についての解説>

●時間について

ワークショップの時間は基本を90分としているので、それよりも長いかわりで記載していきます。

・長時間(120分程度)

テーマ数を増やす、テーマについて深彫りできるよう準備していく、ウェビングマップを広げる時間を長くとり、しっかり発表してもらう、等に対応していました。

・短時間(60分程度)

テーマ数は一つに、発表する時間及び休憩時間を削る、それでも足りなそうならウェビングマップを広げる時間を減らして対応していました。

●人数について

効果的に学ぶには最大30人での実施を推奨します。

・大人数(20~40人以上)

子供たちの学年や時間にもよりますが、可能な限りスタッフを多めに呼び、且つグループワークとすることで、各スタッフが一度により多くの子供に目が届くようにしています。

・少人数(10~20人程度)

個人でウェビングマップを作ります。スタッフがテーブルを回りウェビングマップを書けるようフォローしたり、広げている枝について聞いたりして、子どもが楽しくマップを書けるように目を配っています。

●学年について

・高学年(4~6年生)

基本的に細かいフォローを必要とせず、声をかけすぎないほうが良い場合もあります。

そのため、人数が多くても個人でウェビングマップを書いてもらう事ができます。今回のワークショップで扱っているテーマは高学年以上になると学校教育で学んでいる可能性があるため、その授業内容に合わせてコンテンツをアレンジしたり、テーマを深掘りしてディスカッションができるよう準備を行うと良いです。

・低学年(1~3年生)

ウェビングマップに慣れるまでに時間がかかったり、理解に時間がかかる場面が多くあります。

そのため、テーマとして難しめな「海洋資源の持続可能性」は特に工夫が必要なので、「海洋ごみ」「地球温暖化」のテーマを扱うことが多かったです。理解が進むように、体験要素も多めにしていました。また集中力が途切れてしまう場合が多かったため、可能な限りテンポよくワークショップを進行できるよう意識して行いました。

<個人ワークか、グループワークか>

この項目ではそれぞれのメリット・デメリットを記載しておきます。

なお、スタッフの人数によって個人ワークかグループワークかを適宜選択する場合があります。

以下、そこまで多くの差が無いように感じますが、全ワークショップを通して、**(スタッフの人数が必要なものの) 個人ワークの方が比較的スムーズにワークショップ自体が進み、それぞれの子どもに学びを促すことができました。**

●個人でウェビングマップを作成する

【メリット】

- ・複数人で書くよりも個人の方が性質上ウェビングマップを書きやすい
- ・個人で書いているので自分の制作物として持ち帰ることができる

【デメリット】

- ・参加人数が多い場合、スタッフの人数も必要
(スタッフの人数が少なく、枝を広げられない子どもが多かった場合、フォローが行き届かない)

●グループでウェビングマップを作成する

【メリット】

- ・一つのテーブルで4～5人の子供を見ることが出来るため、少ないスタッフで行える
- ・上手に枝を伸ばせない子どもが他の子どもをみて思いつくことがある

【デメリット】

- ・一緒に書く関係上、スペースの配分やほかの子どもを邪魔してしまう子がいたり、上手いできないケースがある

●8コマ漫画

海に起きている問題、その原因と影響が子どもに伝わりやすいように、8コマ漫画を使って説明しました。

(本プロジェクトの公式サイトからダウンロード出来ます。)

海洋ごみ



海洋ごみが海的环境に与える影響について解説しました。

全体の流れとして、

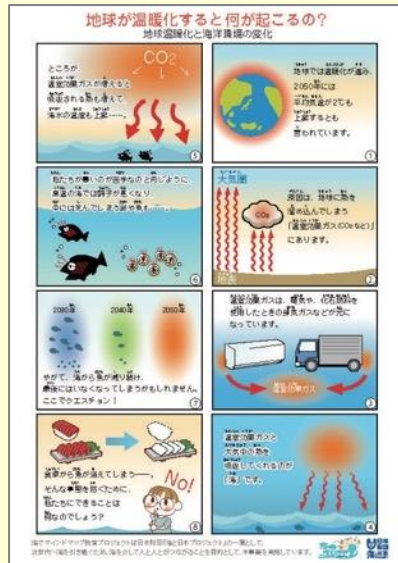
1. 街や海でポイ捨てしたゴミが海へとたどり着く。

2. そのごみの中でも、プラスチックは分解されず、魚が餌と一緒に食べて体に溜め込んでしまう。

3. その魚を人が食べることで、今度は人の中にプラスチックが溜まってしまう。

※プラスチックにつく化学物質が人体に有害なことはありますが、プラスチックが体に溜まること自体に害は無いと言われています。

地球温暖化



地球温暖化が海的环境に与える影響について解説しました。

全体の流れとして、

1. 地球温暖化は何故起きているのかの原因を説明。

2. その結果海の温度が上がり、例として魚への影響について説明。

海洋資源の持続可能性



乱獲が海的环境に与える影響について解説しました。

全体の流れとして、

1. 乱獲とは？何故乱獲が起きている？

2. 乱獲対策について (代用魚、未利用魚、養殖)

ワークショップツール解説 (2/2)

●体験キット

私達が実際にワークショップを行った際には、各問題に対して体験キットを準備し、子どもたちに見て体験してもらうことでその問題をもっと理解してもらえようようにしていました。

地球温暖化キット



地球温暖化によってマグロやその卵にどのような影響があるのかを解説しました。

乱獲キット



魚の「乱獲」についての解説、及び「未利用魚」がどうして発生するのか解説しました。

海洋ごみキット



イワシがマイクロプラスチックを食べてしまう理由を体験を交えて解説しました。

●宣言シート、認定証

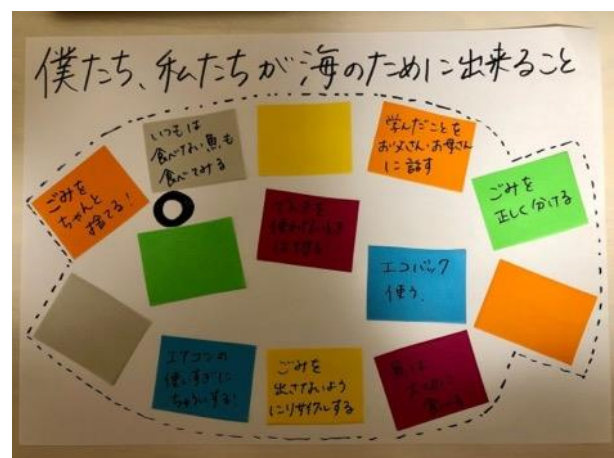
イベントを通して、自分たちそれぞれで出来ることをまとめたシートを作成し、記念の認定証には自分の書いた海のために出来ることを記入してもらうことで、いつでも今日のイベントを思い出せるようにしていました。

認定証



イベント終了時に記念として渡していました。裏面にはこれから自分が海のために出来ることを書いてもらいました。

宣言シート



これから自分が海のために出来ることを付箋に書き、この模造紙に貼ってもらいました。

体験ツアーについて

通常のワークショップの内容に加え、四十八漁場の実際の取り組みを通じて「海洋資源の持続可能性（乱獲問題）」を学び、自分たちにできることを考えてもらうような親子向け体験ツアーも開催いたしました。

※実施レポートはp.46～49に掲載しております。

● 四十八漁場の魚仕分けセンターにて

- ・ ウェビングマップワークショップ
- ・ 仕分け体験（魚を触る体験）

● 四十八漁場の店舗にて

- ・ 海鮮丼を食べる
- ・ 魚捌きの見学

海鮮居酒屋「四十八漁場」の取り組みを体験して、海洋問題を親子で一緒に学びませんか？

学ぶ

脳の動きを効率良く引き出す思考ツール「ウェビングマップ」を使って海洋問題を学習できます！



体験する

普段スーパーで見かけないような様々な魚（未利用魚）の仕分け見学ができます！



食べる

魚の物流がどのようなものかを体感しながら、本ツアー限定の海鮮丼が食べられます！



本プロジェクト「海でマインドマップ教育プロジェクト」は日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、

地球温暖化、海洋資源の持続可能性、海洋ごみといった海洋問題を思考ツール「ウェビングマップ」を活用しながら楽しく学ぶ取り組みを行っています。今回は「四十八漁場」の協力のもと、親子日帰りツアーを開催いたします！

海のアクティブ・ラーニング・ツアー

2020年○月○日(○)

例) 09:00～15:30 学童集合・解散

ツアー箇所 魚物流センター（東京都大田区 大鳥居駅周辺）
四十八漁場 武蔵小杉店

移動手段 ワンボックスカー お問い合わせ ○○学童にご連絡ください。

5組限定

無料

先着順



なぜツアーを開催するの？

現状のまま様々な海洋問題が悪化していくと、2050年頃までに日本近海の天然の魚の種類がほぼいなくなってしまうと言われています。これは子ども達の未来に関わる問題です。今回共に本ツアーを行なう「四十八漁場」は、未来も美味しい魚が食べられるようにと、漁師と共に海洋問題に取り組んでいます。例えば、通常は獲れても食用とされず下手するとそのまま死んでいっている魚（未利用魚）を積極的に取り入れて、お客様に提供しています。また、日々様々な魚が店舗に届けられるので、店員は情報整理する上で効率的な「ウェビングマップ」を書いて、「その魚がどんな魚なのか？」「どう調理方法が美味しいのか？」などを覚えて、お客様に説明できるようにしています。今回のツアーでは、見学や体験を交えつつ、「ウェビングマップ」を活用しながら地球温暖化、海洋資源の持続可能性、海洋ごみについて学び、「自分たちが今出来ることは何か？」と一緒に考えていきます。



ツアー詳細

定員

親子5組（10名）

参加費 無料

09:00	〇〇学童入り口前に集合
10:00	魚物流センターに到着 → ウェビングマップを使って学習① → 仕分け見学
12:30	→ ウェビングマップを使って学習②
13:10	四十八漁場 武蔵小杉店に到着 → 魚の板前ショーを見る → 海鮮丼を食べる
14:30	→ 海のために自分たちが出来ることを考える
15:30	〇〇学童入り口前に解散



- 【留意事項】下記ご理解・ご了承の上、ご参加ください。
- ・ 魚物流センター内は寒いので上着を着た状態でご参加いただきます。また、滑りやすい場所があるため、運動靴など滑りにくい靴でお越しください。
 - ・ 板前ショーや丼作り内容は未利用魚を予定しておりますが、獲れる順次第で当日決定いたします。当日写真・動画撮影を行います。
 - ・ 取材をさせていただく場合がございます。当日お声掛けさせていただいた際はご協力いただけますと幸いです。（断しの方はその場でお断りいたします。）
 - ・ ウェビングマップなど当日お子さんが作ったものをサイト等に掲載させていただきます。（その際は名前などの個人情報は伏せて掲載いたします。）
 - ・ 参加者様の把握や1DAY保険の加入のため、事前に生年月日等含めた個人情報をご提供いただけます。但し、ツアー運営や保険加入申し込み以外の目的では使用いたしません。

- 【運営主体】海でマインドマップ教育プロジェクト実行委員会
【協力】公益財団法人 日本財団 海と日本PROJECT
【後援】株式会社エー・ピーカンパニー「四十八（よんぱち）漁場」魚事業本部

本プロジェクトは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代へ海を引き継ぐため、海を介して人と人がつながることを目的として、本事業を実施しています。



●本プロジェクト公式サイト

公式サイトにてイベントレポートを掲載し、また、どなたにでもワークショップができるようにイベントツールとしてマニュアル・進行台本・8コマ漫画のダウンロードページを設けました。



イベントレポート

日程：2019年12月17日
会場：横浜市立三ツ沢小学校
参加者：小学5年生（30名）

今回ワークショップを実施したクラスでは、これまで総合の時間の中で「磯焼け」「キャベツウニ」「魚の流通」「神奈川の家」など、海や魚に関連するテーマを研究してきました。今回それぞれのテーマについてウェビングマップを書いてもらい、調べてきた内容を整理した上で、それらの学習テーマが「地球温暖化」「海洋資源の持続可能性」「海洋ごみ」にどうリンクしているのか、学んでもらいました！

今後、地域の人々に向けて発表をするそうで、地域を巻き込んで海洋問題のことを考えていってもら

●本プロジェクトTwitter

本プロジェクトのTwitterにて、ワークショップ・体験ツアーのイベントレポートを行いました。

※体験ツアーに関しては四十八漁場の公式Facebookでもイベントレポートを掲載予定でしたが、コロナウィルスの影響で掲載中止となりました。



海deマインドマッププロジェクト @de40626198 · 1月21日

前回あげた魚のキットを使用して、魚はプランクトンとマイクロプラスチックを食べ分けることはできないという体験を行なってもらいました。

注射器のように吸い取って、ピーカーに出した玉の色が色々あることで、食べわけができないことを伝えています。

#海と日本 #日本財団



2

5



海deマインドマッププロジェクト @de40626198 · 1月17日

「魚はマイクロプラスチックとエサを分けて食べることはできないんだよ」ということを説明するためのキットを作成！ #海と日本 #日本財団



● 科学センター・ハチラボでの特別展示への参加

特別展示「みらいのために。より良い環境をつくろう展」で海洋ごみについての掲示依頼をいただき、ブースを一部借りてPRを実施。

- ・「海と日本プロジェクト」のポスターを掲示
- ・「海洋ごみの真実」の動画を常時再生
- ・本プロジェクトの概要説明資料を掲示
- ・海洋ごみの実物を展示
- ・マイクロプラスチックの抽出体験スペースを設置
- ・人間が出したごみがマイクロプラスチックになるまでの流れとその影響を説明した漫画の配布資料を設置
- ・ハチラボでのワークショップで参加した子どもたちが書いた「僕たち私たちが海のためにできること」を掲示



●四十八漁場の店舗でのポスター掲示

四十八漁場の店舗（26店舗）にて、「海と日本プロジェクト」と本プロジェクトのPRを実施。



- 【開催日時】 2019年7月20日
- 【開催場所】 秦野市文化会館
- 【参加学年】 中学1～3年生
- 【参加人数】 4名
- 【実施時間】 90分

●特徴・工夫点

- ・初回のデモということで、こちらが考えている通りにウェビングマップが展開していくかを確認することが主な目的となった。
- ・カードや副読本を使い、枝が広がり終わったところで新たな枝を伸ばす方法を試行。

●良かった点

- ・中学生ということもあり、基本的な知識があったため、かなり内容の濃いウェビングマップが出来た。
- ・ペンの色を前半と後半で変えることで、展開が分かりやすくなった。
- ・大人がその場で子供たちに声がけをしながら行った結果、枝が広がった。

●改善点

- ・小学生にも同じような手法では成立しないので、より細やかなディレクションが必要。
- ・副読本の情報を書き写す形で枝が広がっていくパターンに陥ったので、発想を広げていくためのツールになるように副読本の取り扱いに注意が必要。
- ・「うなぎ」が嫌いな生徒がおり、ほとんど書けなかったので、事前に好き嫌いを確認がしたり、ウェビングマップの中央に書く魚種を自由に選択しても進行できるようにコンテンツを組むなど、工夫が必要。

●所感（サイト掲載内容）

初回の開催ということで、スタッフも緊張気味でしたが、和やかな雰囲気を実施することが出来ました。

これからもっとブラッシュアップして、多くの子供たちに海のことを伝えていきたいです。

【開催日時】 2019年7月20日
【開催場所】 秦野市文化会館



【開催日時】 2019年8月2日

【開催場所】 学童施設「さわらび」（千葉県松戸市）

【参加学年】 小学2～4年生

【参加人数】 20名

【実施時間】 90分

●特徴・工夫点

- ・初の小学生対象の実施であり、学童での実施ということで、低学年がウェビングマップが出来るかの実証実験及び大人数をディレクション出来るのか？を試行する場となった。
- ・少人数ごとにグループを分け、担当をつける形でメイン進行と各班ごとの進行役とでスタッフを割り振った。

●良かった点

- ・人数をかけて細やかに配慮することで、ウェビングマップが出来ない児童は出さずに実施をすることが出来た。
- ・こちらが想定していなかった面白い発想や言葉が出てきており、ウェビングマップの優れている点を確認することが出来た。
- ・学童の雰囲気やレイアウト、子供たちに対する講師としてのスタンスの取り方を確認することができた。

●改善点

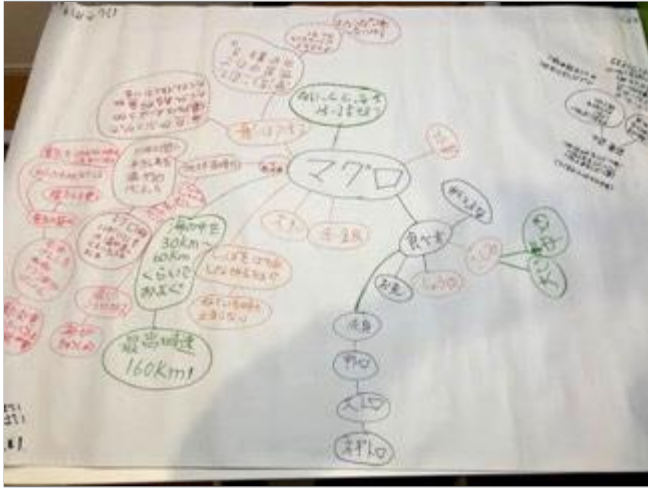
- ・非参加者の児童と同じスペースでの実施となり、大きな声でのディレクションが出来ずに進行がスムーズにいかない局面があった。
- ・ウェビングマップは出来ても、環境問題について枝を伸ばすことが難しく、事前に基礎知識を伝える進行が必要であることが分かった。

●所感（サイト掲載内容）

初めての小学生向けのワークショップ、大人たちがびっくりするような様々な言葉やアイディアが出てきて、その想像力にびっくり！みんなで楽しく学ぶことが出来ました。

【開催日時】 2019年8月2日

【開催場所】 学童施設「さわらび」 (千葉県松戸市)



【開催日時】 2019年8月26日

【開催場所】 四十八漁場調布店

【参加学年】 小学1～中学2年生

【参加人数】 5名

【実施時間】 90分

●特徴・工夫点

- ・店舗での実施ということで、四十八漁場のスタッフも一緒にウェビングマップを作成し、子供たちと大人たちでの比較を行った。
- ・店舗での実施ということで、学んだ魚種を使用した海鮮丼を準備した。
- ・親子での参加を呼びかけ、親子でウェビングマップを作成するアプローチを行った。

●良かった点

- ・海鮮丼や店舗の雰囲気などが、子供たちを海の世界に引き込むことに役立った。
- ・親子で対話しながらのウェビングマップ制作を見ることで、講師のディレクションにおけるボキャブラリーが増えた。
- ・大人と子供とが同じ主題でウェビングマップを行うことで、子供たちの発想の豊かさと陥りがちな不具合について検証することが出来た。

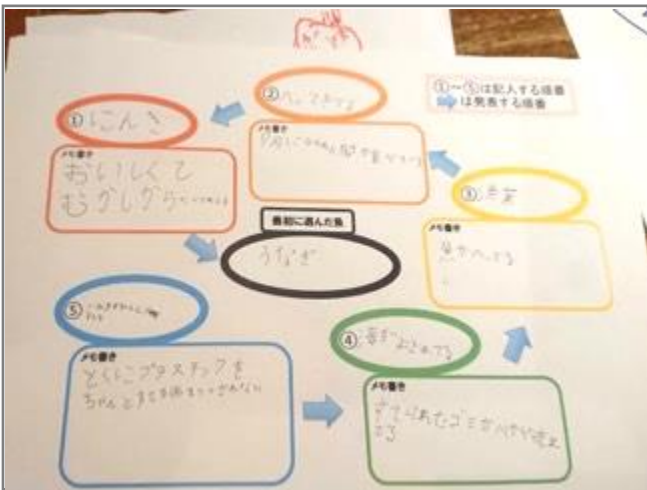
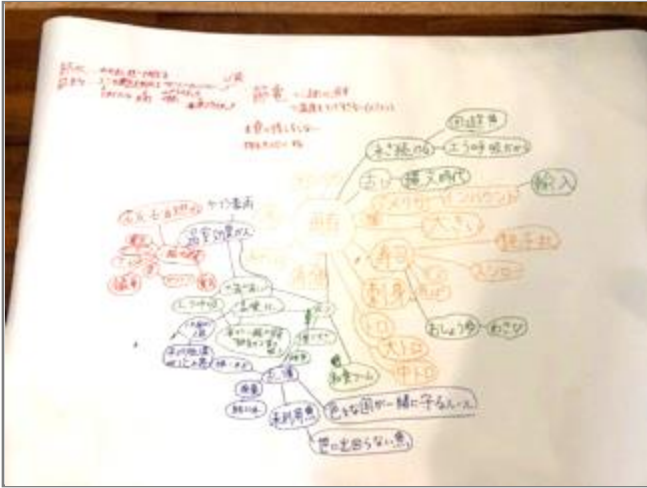
●改善点

- ・店舗実施における募集の難しさを感じた。今後は学童や施設にターゲットを絞ることとする。
- ・海鮮丼や店舗実施での子供たちのテンションの上がり方が素晴らしかったので、体験型事業として、今後メニュー開発していくこととする。
- ・親子での実施では保護者の介入が多く見受けられることがあるため、今後は基本的に子供だけでの実施を行う。

●所感（サイト掲載内容）

今回は「四十八漁場」さんの店舗でワークショップを実施しました。親子でつくるウェビングマップと、テーマの魚を使った海鮮丼に子供たちは大興奮！五感で楽しめるイベントとなりました。今後も子供たちの笑顔を作っていきたいと感じた一日でした。

【開催日時】 2019年8月26日
【開催場所】 四十八漁場調布店



- 【開催日時】 2019年10月8日
- 【開催場所】 ベネッセ学童クラブ千石
- 【参加学年】 小学1年生
- 【参加人数】 11名
- 【実施時間】 60分

●特徴・工夫点

- ・子ども達の発想を広げるために、副読本は使用せず、気になったことをタブレットを使って検索してもらった。
- ・海洋ごみやマイクロプラスチックの実物を見てもらった。
- ・低学年の場合、魚（イワシ）をテーマにウェビングマップを書いた後に環境問題について説明しても繋がりがわかりにくいのでは？という懸念があり、体験キットを作り、それを用いつつ、マイクロプラスチックがイワシにどういう影響を与えているのか？という振り出しをする工夫をした。
- ・学童の先生のアドバイスをもとに、書いたウェビングマップを褒めるために、可愛いシールを準備した。
- ・このワークショップに参加したことを人に伝えたいような仕組みとして、宣言した内容が書けるような認定証（カード）を配布。

●良かった点

- ・想像以上に低学年でもウェビングマップが書けることがわかった。ただ子どもによって、綺麗に書くことを気にしてなかなか進まない場合もあるということも気づきとしてある。
- ・最初にスライドで魚について説明したことで、子ども達の発想が広がり、ウェビングマップが広がった。

●改善点

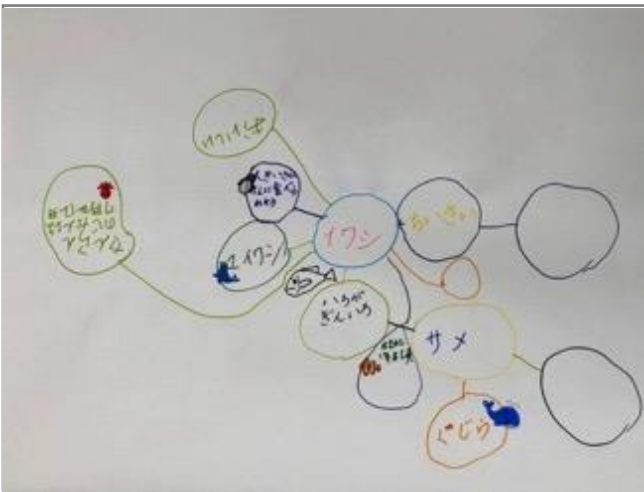
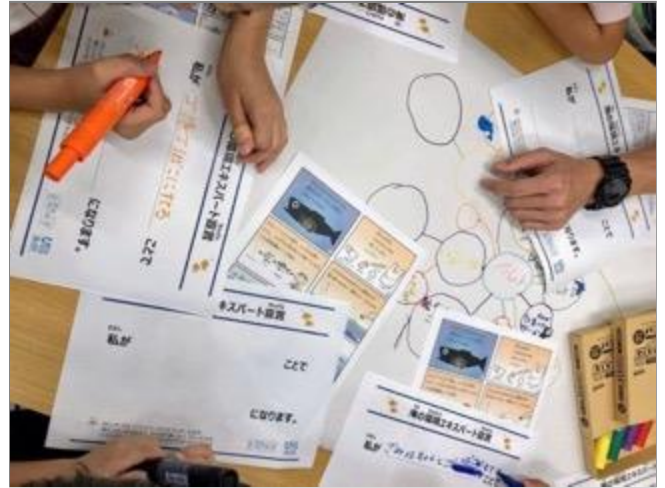
- ・タブレットでの検索や検索した内容の読解が難しく、一人一人大人がついてフォローしないと進まなかったため、低学年でのタブレット使用はやめて、発想を広げられる他の方法を検討する必要がある。
- ・子ども達が飽きないように、テーブルにつく講師を適宜変えたり、全体で話す講師を交代したりすると良い。
- ・かえってシールで気が散ってしまったようなので、今後シールを使うのはやめた方がいい。

●所感（サイト掲載内容）

今回は「海洋ごみ」について学びました！海洋ごみがどういうプロセスでイワシの体内に入り、私たちの身体にも入ってくるのかを説明すると、賑やかだった場の空気がガラッと変わって静かになったのが印象的でした。「この問題を解決するにはどうしたらいいかな？」という質問をすると、すぐに「ごみを減らせばいい！」などと口ぐちに反応が返ってきました！海の環境を守るために、自分たちが出来ることから始めてもらえたら嬉しいです。

【開催日時】 2019年10月8日

【開催場所】 ベネッセ学童クラブ千石



- 【開催日時】 2019年11月18日
- 【開催場所】 入谷こどもクラブ
- 【参加学年】 小学1年生～5年生
- 【参加人数】 28名
- 【実施時間】 60分

●特徴・工夫点

- ・これまではウェビングマップを説明してから海や魚の話に入っていく流れだったのだが、子ども達の興味を引くために、海や魚の話題から入る流れで進行していくことにした。
- ・人数が多かったため、今回はウェビングマップを書くにあたってタブレットで検索するというコンテンツは入れず、様々な魚の写真をタブレットに入れてそれを見せて質問を投げかけたりする方法で発想を広げていく形をとった。
- ・60分の短時間で、ウェビングマップを全体で発表する時間を取ることが厳しかったため、それぞれのテーブルで発表する形をとった。
- ・「自分たちが出来ること」は各自付箋に書いて、大きな模造紙に貼るという形式に変更。

●良かった点

- ・海や魚の話題から入ったことで、序盤で子ども達の興味を引き出すことに成功した。
- ・ウェビングマップを広げるのに苦戦している低学年グループがあったのだが、イラストなら描けそうだったので、絵を描いてもらった。海洋問題を伝えることが第一なので、ウェビングマップが書けないからワークショップに参加できないということのを避けて、出来ることで参加してもらおうという形が臨機応変に取れたのは、これまでの積み重ねの結果だと思う。
- ・学童を代表して男子児童が感謝の言葉を伝えてくれた。

●改善点

- ・一人一人に密にコミュニケーションが取れない中で、各テーブル講師がどういう声掛けをすれば子ども達はウェビングマップを広げやすくなるのか？という話になったが、「～と言えば？」という問いかけをするだけで、発想が広がるということが講師内で共有できた。
- ・「カレーライス」を題材にみんなでウェビングマップを広げていったが（連想できることを挙げてもらい、講師が書いていく）、広げ方が不十分だったので、やり方を伝えるためにもう少し丁寧に実施する。

●所感（サイト掲載内容）

今回は「海洋ごみ」について詳しく学びました。

少しでも実感を持ってもらえればと、実際に海洋ごみやマイクロプラスチックを見せると、興味津々で見てくださいました。

ウェビングマップを書くのが楽しかったようで、ワークショップが終わっても書き続けるお子さんもいて、ウェビングマップで発想が広がっていくことを楽しみながら海洋問題を学んでもらえている様子が伺えました！

【開催日時】 2019年11月18日
【開催場所】 入谷こどもクラブ



【開催日時】 2019年11月19日

【開催場所】 放課後スクールMOCOPLA 四ツ谷教室

【参加学年】 小学1,2年生

【参加人数】 9名

【実施時間】 70分

●特徴・工夫点

- ・マグロから3つの海洋問題にアプローチできるようなコンテンツを開発して実施。
- ・乱獲について知ってもらうため、乱獲の体験キットを準備。
子供に漁師となってもらい魚を疑似的にとってもらうことで、「乱獲とは何か?」「どうして起こるのか?」を体感し、自分ごと化できるような体験を行った。
- ・魚の乱獲について考え、そのために自分が出来ることを認定証カードに文字として残すことで、ワークショップ後にも海について継続して考えるよう促した。

●良かった点

- ・ウェビングマップを活用することで、知っていることや学んだことを整理し、楽しく理解することが出来ていた。
- ・体験キットや8コマ漫画を利用することで、乱獲の問題や、その対策として未利用魚や代用魚を食べることを伝えることが出来た。

●改善点

- ・途中で集中力が切れてしまう子が多くいて、3テーマを説明しきれなかったり、ウェビングマップを広げていく時に主題から大きく外れてしまう子供がいたため、そういった子も最後まで楽しめるようなメリハリのあるメニュー作りが必要。
例えば、講師を適宜入れ替えるなどもその一つ。
また、短時間のワークショップでも必要に応じて休憩を入れるという意識で進行する。
そして、振り返りのタイミングでそういった子供に対する対応を講師同士で話し合い、現時点で考えられるノウハウを共有した。
- ・乱獲というテーマ自体が低学年にとって難しかったようで、こちらの想定より理解が進んでいないように感じた。学年毎に扱うテーマは考える必要がある。

●所感（サイト掲載内容）

今回は「乱獲」について学びました！

「乱獲とは一体何か?」「乱獲するとどうになってしまうのか?」を体験キットや8コマ漫画を交えながら解説を行いました。

最初は「乱獲」についてよく知らなかった子供たちも、最後には乱獲についてある程度理解でき、代用魚を食べることや、その時期に多くいる「旬」の魚を食べることで乱獲を防げる等の答えが返ってくるようになっていました！

このワークショップを通して、魚に興味を持ち、守ることで、海の資源を守ってもらえたら嬉しいです。

【開催日時】 2019年11月19日

【開催場所】 放課後スクールMOCOPLA 四ツ谷教室



- 【開催日時】 2019年11月25日
- 【開催場所】 大豆戸すこやか学童クラブ
- 【参加学年】 小学1年生～4年生
- 【参加人数】 27名
- 【実施時間】 90分

●特徴・工夫点

- ・海洋問題を理解してもらうために、90分という時間を活かし、伝えた海洋問題についてウェビングマップを広げてもらうという回数を増やした。
- ・子ども達の集中を保つために、途中で休憩を入れた。
- ・マグロの大きさ3mを表すために、紐を使って伝えることでより実感を持ってもらう。

●良かった点

- ・元気な子どもがいたので、ワークショップの序盤から適宜意識的に指名して答えてもらうことで、妨げられることなくスムーズに進行できた。
- ・また、年上の子が年下の子のフォローをしたり、注意したりしてくれたので、大人数ではあったものの、場としてまとまっていたので、丁寧に海洋問題を説明できた。
- ・5人で1枚の模造紙に書いてもらったが、スペースが足りないグループも出てくるなど、とても主体的にウェビングマップに取り組んでくれた。

●改善点

- ・グループワークの性質上、一つの模造紙に複数人で書くことになるのだが、他の人が書いた単語や似た内容を書きづらくなり、結果として枝を広げづらくなっていた。同一の単語を書いて良いことを上手く伝えられるよう考えたい。
- ・「海洋資源の持続可能性（乱獲）」の問題を理解して、自分ごと化するのが難しいようだった。四十八漁場の取り組みを写真も使いつつより具体的に伝えることで、こんなことをやっている大人たちがいるんだという理解で印象に残すことができるのでは。
- ・今回3テーマについてウェビングマップを書いてもらったが、何回も書くことに疲れている子どもも見受けられた。海洋問題を自分ごと化する前に疲れてしまわないように、書く回数を減らした方が良い。

●所感（サイト掲載内容）

「地球温暖化」「海洋資源の持続可能性」「海洋ごみ」の3テーマについて学びました。グループで模造紙にウェビングマップを書いてもらいましたが、スペースが足りないグループも出てくるなど、楽しんで取り組んでくれました。自分たちにできることをたくさん挙げてもらいましたが、電気をこまめに消すなど、参加したお子さん同士で意識し合って楽しく行動していってもらえたら嬉しいです！

【開催日時】 2019年11月25日

【開催場所】 大豆戸すこやか学童クラブ



【開催日時】 2019年11月26日

【開催場所】 日本保育サービス 赤羽台西小クラブ第2

【参加学年】 小学1～3年生

【参加人数】 26名

【実施時間】 60分

●特徴・工夫点

- ・説明していることへの理解が進まない子どもや、集中力が保たない子どもが多く見受けられたため、座学を長時間維持するのが難しいとその場で判断し、学童の先生にも協力いただき、各テーブルにつく大人の人数を増やした。
- ・「地球温暖化」が魚にどのような影響を与えるかを分かりやすく伝えるため、体験キットと8コマ漫画を準備。地球温暖化が起きると何故魚が減ってしまうのかを解説した。
- ・「海洋ごみ」についての体験キット、8コマ漫画を準備。また実際に拾ってきた海ごみを子供たちに見てもらい海の今を知ってもらう。

●良かった点

- ・各テーブルに対して手厚くフォローすることができ、多くの子どもにウェビングマップをしっかりと広げてもらうことが出来ていた。
- ・地球温暖化の体験キットが非常に好評で多くの子どもたちが前のめりになって聞いており、温暖化とマグロがどのように繋がっているかをしっかりと知ってもらうことが出来ていた。
- ・実際の海ごみを見ることで、ごみをポイ捨てしたり、分別せず捨ててはいけない、という意識づけが出来ていた。

●改善点

- ・終始茶々を入れてくる子供が2、3人いて、その子供たちを上手に捌くことができないままワークショップが終わってしまった。学童の先生たちも手を焼いていたので難しいのかもしれないが、こういった子供がいた際にどのような対応をすべきかしっかりと講師陣でノウハウを溜めていく必要がある。
- ・体験キット、8コマ漫画それぞれのパートで伝える内容が被ってしまっていた。体験キットはあくまでも8コマ漫画での説明の振り出しという立ち位置にすると、講師陣の認識を揃えた。

●所感（サイト掲載内容）

今回は「海洋ごみ」「地球温暖化」について学びました！

地球温暖化によって、マグロの卵が死んでしまうことを聞くと、「えー」という声や、

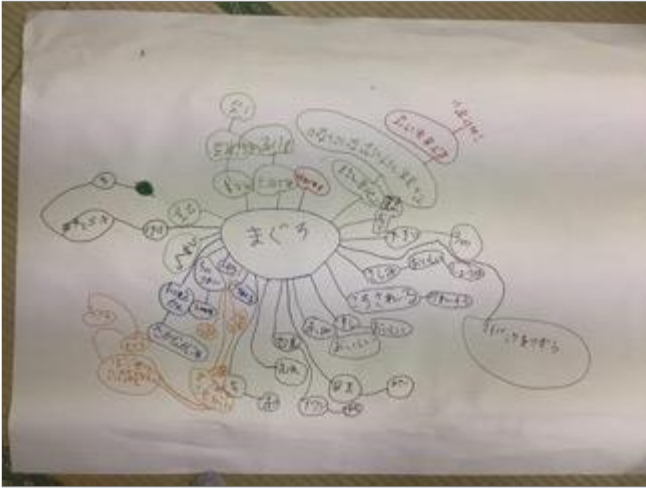
「可哀想」という声が聞こえてきました。

マグロが死なないためにどうしたらいいかを聞くと、「使わない電気を消す」や「クーラーをあまり使わない」という答えが返ってきました！

環境のために出来ることに積極的に取り組んでいってもらえたらと思います。

【開催日時】 2019年11月26日

【開催場所】 日本保育サービス 赤羽台西小クラブ第2



【開催日時】 2019年12月1日

【開催場所】 放課後スクールMOCOPLA 市ヶ谷教室

【参加学年】 小学2～5年生

【参加人数】 8名

【実施時間】 90分

●特徴・工夫点

- ・初の「マインドマップ」を用いたワークショップとなった。
ウェビングマップと比較して、枝を伸ばしてその上に文字を書くという書き方が難しい。そのため、講師の自己紹介のマインドマップを見せて、その場で書き加えるという形で書き方を説明することで、書き方を理解してもらうように工夫した。
- ・マインドマップを複数人で作るのは難しいため、グループでなく個人ワークでの開催となった。
- ・イベントの最後には当日作成したマインドマップを用いて、今日学んだことを数人に発表してもらった。

●良かった点

- ・マインドマップを書き進めやすく、且つ、海洋問題にも触れられるように「好きなところ」「生き物」「海の幸・海の恵み」「困っていること」と最初の枝を設定したところ、取り組めるところから満遍なく発想が広がっていく結果となり、とても良かった。
- ・漫画で説明している内容を覚えていられないという反省点から、今回からメモしてもらうようにしたが、そのおかげで海洋問題についてもウェビングマップが広がっていった。
- ・個人ワークとした結果、各子どもの理解進捗が把握しやすくフォローがしやすくなった。

●改善点

- ・やはりマインドマップの書き方は少し難しく、書き始めてから少しの間苦戦する子供が見受けられたので、実際に海についてのマインドマップを書く工程を見せるなどより工夫した説明が必要であると感じた。
- ・また、振り返りのタイミングで、マインドマップの書き方についてどこまで細かくフォローするかを講師同士で話し合い、正しい書き方よりも書き進めてもらうことを重視しようと認識を揃えた。

●所感（サイト掲載内容）

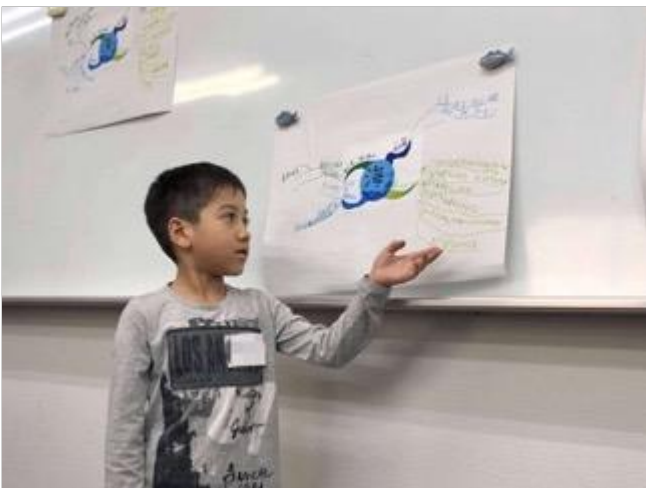
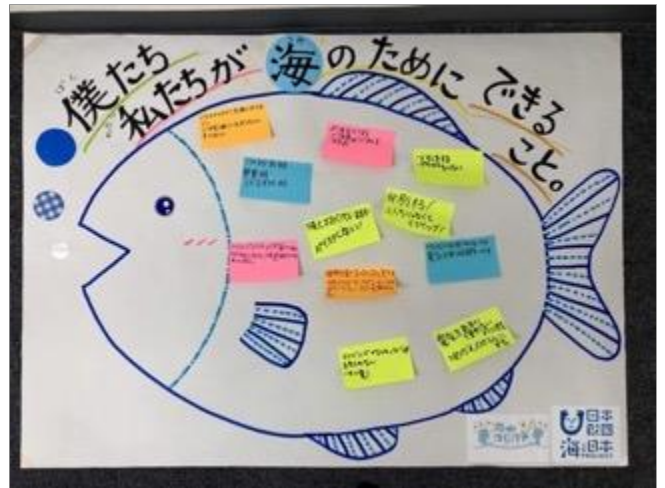
今回はマインドマップを使って、「海洋ごみ」「地球温暖化」の2テーマを学びました。マインドマップはやや難しく最初苦戦する子もいましたが、その日学んだ環境問題や元から知っていたことを上手にまとめて、最後にはみんなの前で発表できるところまでマップを広げていました！

自分で発表した子も他の人の発表を見た子も、最後には海の環境のために出来る事をそれぞれ書いて一枚の宣言シートにしてくれました。

今日学んだことを家族や友達など、周りの人に伝えて海の環境を守る輪を広げていってくると嬉しいです。

【開催日時】 2019年12月1日

【開催場所】 放課後スクールMOCOPLA 市ヶ谷教室



- 【開催日時】 2019年12月5日
- 【開催場所】 東京学芸大附属世田谷小学校
- 【参加学年】 小学5年生
- 【参加人数】 30名
- 【実施時間】 120分

●特徴・工夫点

- ・これまでの進行台本をより高度にブラッシュアップし、3つの海洋問題全てについて解説した。
- ・グループではなく30名の児童一人一人がウェビングマップを書いていき、それをクラス全員でディスカッションして「海のために自分たちが出来ること」をテーマに黒板でウェビングマップを作成する、という2段階の手法で実施。
- ・こちらが決めた3テーマから発展して、海と環境のことを大きく広げるようなワークショップを実施。

●良かった点

- ・長時間かつ高度な進行だったが、全員が環境問題について深く考えることが出来、学校にも高評価だった。
- ・広く「海と環境」をテーマにし、児童全員に違うウェビングマップを書かせ、そこから自分たちが気を付けるべきアクションを、クラス全体を巻き込んでディスカッションすることができた。
- ・学校の授業の様子や最近習ったテーマ、今日の給食など、細やかな情報を事前にヒヤリングすることで、子供たちが世界観に入り込みやすい導入と進行を行うことが出来た。
- ・四十八漁場での環境を配慮した取り組みをより具体的に話して、社会貢献的なビジネスがあると伝えられた。実際に子ども達に関心を持っている様子が見受けられた。

●改善点

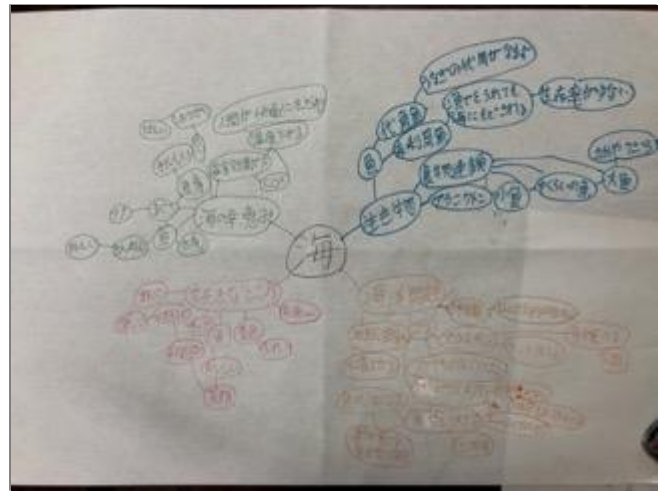
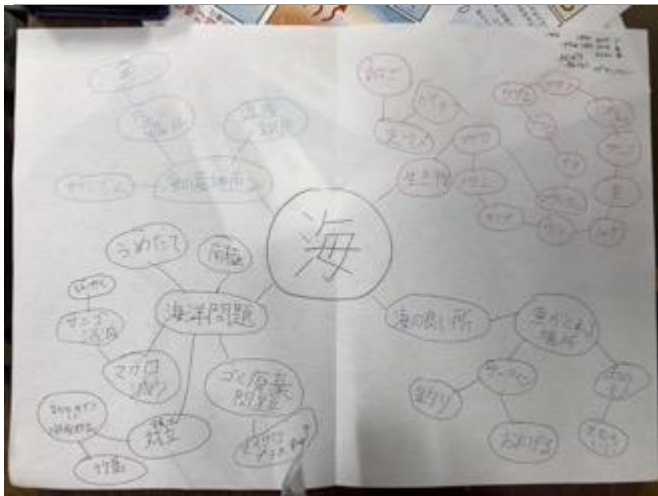
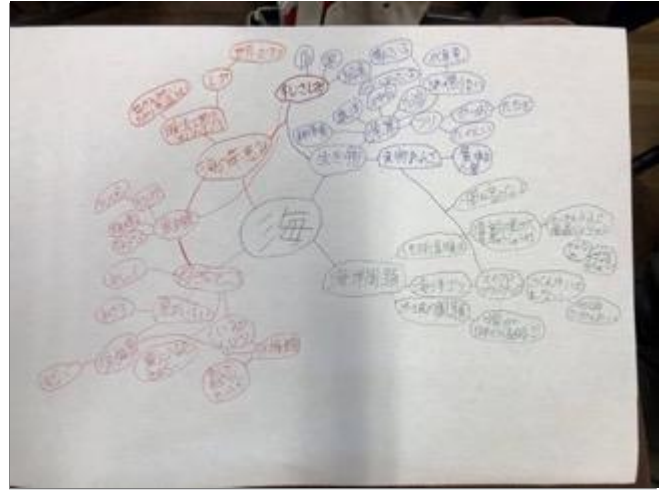
- ・これだけの時間をかけたワークショップは中々実施できないので、次回以降は事前学習など、より深いアプローチが出来るよう工夫していきたい。
- ・事前に地域についての学習や環境についての学習内容をヒヤリングしておけば、更に深いワークショップを行うことが可能。
- ・体験用のキットを高学年向けにリニューアルする必要があると感じた。

●所感（サイト掲載内容）

今回は1クラスの児童30名がそれぞれでウェビングマップを書き、その内容をもとにクラス全員でディスカッションをして、黒板で「海の環境を守るための」のウェビングマップを作成するという、とても内容の濃いワークショップとなりました。このクラスからきっと、海が変わっていくと願っています！

【開催日時】 2019年12月5日

【開催場所】 東京学芸大附属世田谷小学校



【開催日時】 2019年12月6日

【開催場所】 放課後スクールMOCOPLA 四ツ谷教室

【参加学年】 小学1、2年生

【参加人数】 10名

【実施時間】 120分

●特徴・工夫点

- ・基本は90分のコンテンツだが、初めて120分の時間をいただけた。いつもより長い時間ワークショップが出来ることを活かして、一つ一つのコンテンツプロセスをより丁寧に行ったり、子供たちの集中力も配慮し休憩をこまめに取ったりなど、進行を工夫した。
- ・マインドマップを用いてワークショップを行った。今回の対象が低学年であるため、海のマインドマップを全員で一緒に書く練習をしてから、各自書く際には適宜問いを投げかけながら、子供に自由な発想を広げてもらえるようにした。
- ・四八漁場の取り組みを伝えることで、実際に海の環境を守るための努力を知ってもらい、より身近に考えてもらえるようにした。

●良かった点

- ・長時間かつ低学年相手だったにも関わらず、子供達の様子を見つつ短時間の休憩を複数回挟んだことで、子供たちが集中を切らさずイベントを終えることが出来、最後までしっかり楽しく学べるワークショップとなった。
- ・実際に環境のために取り組んでいる会社がある事を知ることは、ワークショップの説得力も上がり、子供たちが海の環境のために出来る事に具体性を持たせることができ非常に良かった。
- ・最後に学んだことを発表してもらうことで、その日学んだことを説明するために整理したり、他の視点での考え方を知ることが出来た。

●改善点

- ・当日急遽途中から参加する子どもがいることがわかった。
今回は講師の人数が足りていたので、別進行での細かいフォローができたが、今後は予めそういうケースが起こる可能性があることも念頭に入れておく必要があると感じた。

●所感（サイト掲載内容）

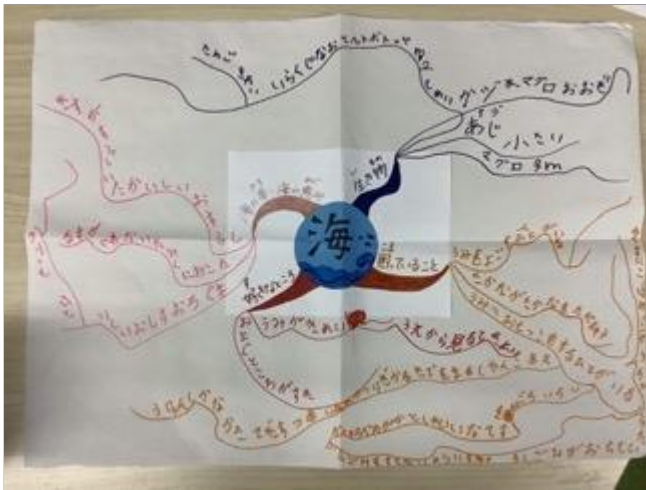
今回はマインドマップを使って、「海洋ごみ」と「地球温暖化」について学びました！
120分と長いワークショップでしたが、最後まで元気に海の環境について学んでくれました。

発表では、「ごみをポイ捨てするといわしが食べちゃうから、ごみ箱に捨てたりごみ拾いもする」「地球温暖化しないように電気をしっかり消す」等自分が出来る事までしっかり伝えられているのが印象的でした。

海のために出来ることを少しずつ行動に移してもらえればと思います！

【開催日時】 2019年12月6日

【開催場所】 放課後スクールMOCOPLA 四ツ谷教室



【開催日時】 2019年12月13日

【開催場所】 神明子ども中高生プラザ学童クラブ

【参加学年】 小学2年生～5年生

【参加人数】 12名

【実施時間】 60分

●特徴・工夫点

- ・グループ形式のウェビングマップでも海を中心に、そこから4つのサブテーマ「好きなところ」「生き物」「海の幸・海の恵み」「困っていること」を設けて、書き進めてもらった。
- ・「今日やること」として何をやるのかを模造紙に書いたものを掲示することで、どういう場なのかを理解してもらえるように工夫した。

●良かった点

- ・もともとどれくらい海洋問題について知っているかにもよって、ウェビングマップへの広がりには差があったものの、それぞれができる範囲で主体的に取り組んでくれた。
- ・ダウン症の子もいたが、学童側の補助スタッフがついていてくれたのもあり、参加できる範囲で楽しく参加してくれ、積極的に発表もしてくれたので良かった。

●改善点

・子ども達が「中国人が海洋ごみをたくさん出している」という知識を持っていて、それに対して「そういう風にも言われているよね」という返しで終わってしまった。中国からの海洋ごみが多いという説はあるものの、そもそも日本を含め他の国が中国にごみを輸出している経緯もあるので、「中国人が海洋ごみを出している」と伝えると偏見に繋がりがかねない。講師の知識レベルを合わせる機会になった。

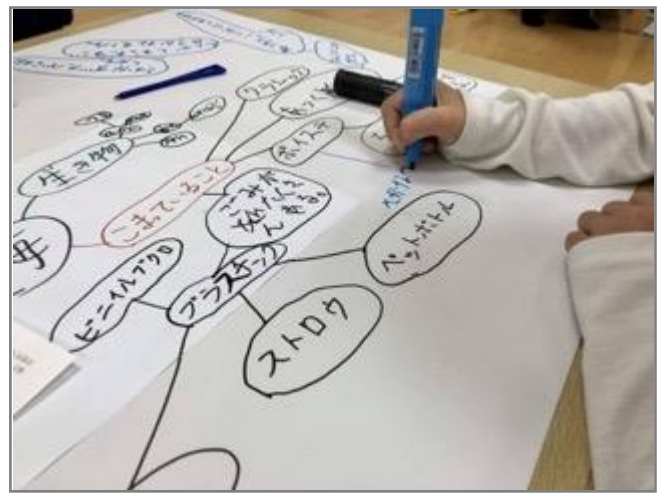
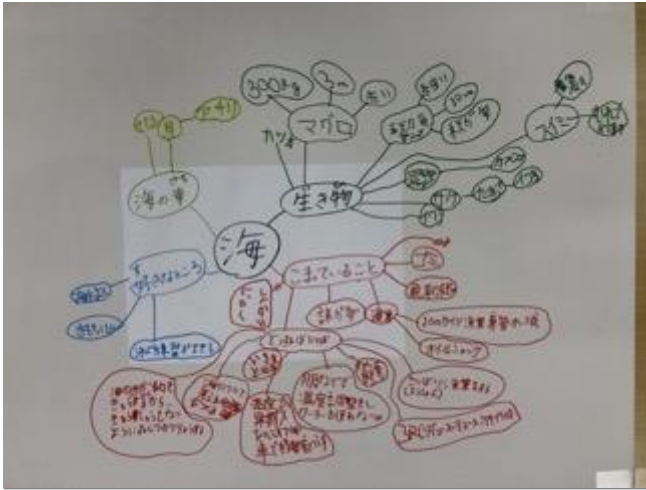
●所感（サイト掲載内容）

今回は「海洋ごみ」「地球温暖化」について学びました！
海洋問題を学びながら、ウェビングマップを思い思いに広げてくれて、海洋ごみの問題に対しては「リサイクル出来るものはリサイクルする」
地球温暖化の問題に対しては「洋服で体温調節してエアコンをなるべく使わないようにする」などと対策を考えてくれました。

リサイクル出来るものと出来ないものがあるだけでなく、
実はリサイクルするつもりで分別しても、
中をしっかりと洗い流していない調味料のボトルはリサイクルされない場合があったりと、
どういう状態のものがリサイクルに回されるのかを知ること大切だったりするんです。
これを機に関心を持って自分で調べたり、人に聞いたりしてもらえたらと思います！

【開催日時】 2019年12月13日

【開催場所】 神明子ども中高生プラザ学童クラブ



- 【開催日時】 2019年12月17日
- 【開催場所】 横浜市立三ツ沢小学校
- 【参加学年】 小学5年生
- 【参加人数】 30名
- 【実施時間】 120分

●特徴・工夫点

- ・もともこのクラスは総合の時間で数ヶ月間グループごとに海や魚に関するテーマ（「未利用魚」「マイクロプラスチック」「さんま」「キャベツウニ」「磯焼け」「魚の流通」「神奈川の家」）について調べてきていた。今回それらを海洋問題に繋げて学習することで、地域の人々への提言内容を考えるヒントを得たいというニーズがあったため、それを踏まえてコンテンツを検討。
- ・それぞれの学習テーマについてマインドマップを書いてもらって、全体に対して発表してもらった。
- ・その上で、それぞれどのような海洋問題につながるかを講師が説明。
- ・総合の時間の発表に向けて、まずは「海のために個人で何が出来るのか？」を考えてもらい問題を自分ごと化させて、その上で「地域で何が出来るのか？」を深めていけるのかも考えてもらうような投げ掛けをしてワークショップを終えた。

●良かった点

- ・マインドマップがこれまでの学習を整理するのに役立った。
- ・それを使って講師との問答の時間を取れたので、本人たちが理解できていること／できていないこと（改めて調べる必要があること）が何かを知る機会になった。
- ・すでに海や魚について調べている子ども達だったので、今回伝えた3つの海洋問題への理解が深く、今まで以上に充実したワークショップになった。

●改善点

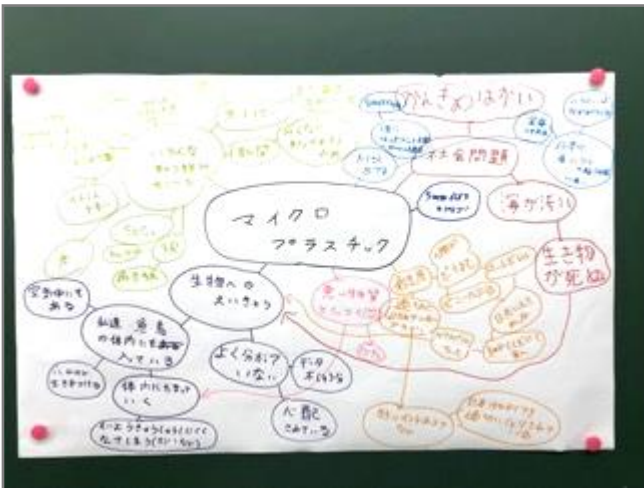
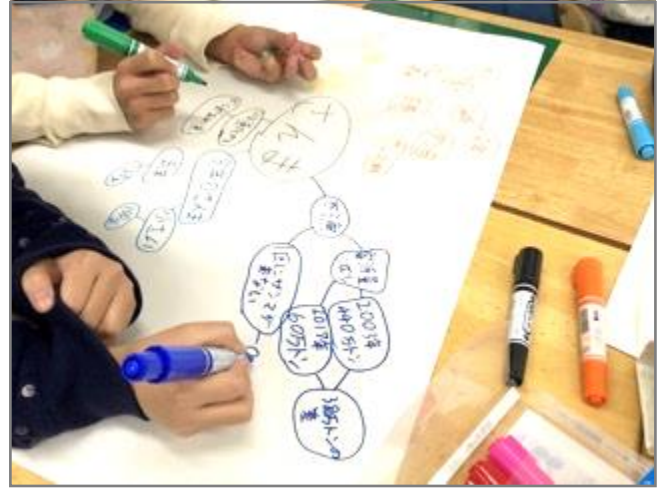
- ・（今回は時間的に厳しかったが、）海洋問題について説明した後、さらにマインドマップを広げていって発表するという形が取れたら、学習テーマと海洋問題の繋がりへの理解が更に深まったかもしれない。

●所感（サイト掲載内容）

今回ワークショップを実施したクラスでは、これまで総合の時間の中で「磯焼け」「キャベツウニ」「魚の流通」「神奈川の家」など、海や魚に関連するテーマを研究してきました。今回それぞれのテーマについてウェビングマップを書いてもらい、調べてきた内容を整理した上で、それらの学習テーマが「地球温暖化」「海洋資源の持続可能性」「海洋ごみ」にどうリンクしているのか、学んでもらいました！今後、地域の人々に向けて発表をするそうで、地域を巻き込んで海洋問題のことを考えていってもらえると良いなと思っています。

【開催日時】 2019年12月17日

【開催場所】 横浜市立三ツ沢小学校



【開催日時】 2020年1月13日

【開催場所】 科学センター・ハチラボ

【参加学年】 1回目：小学2～4年生 2回目：2～5年生

【参加人数】 1回目：7名 2回目：12名

【実施時間】 90分

●特徴・工夫点

・ハチラボからの要望で体験パートを重視してコンテンツを設計。

- ①イワシのフィギュアを使った体験（プランクトンとマイクロプラスチックの区別なく、イワシが体内に取り込んでしまうのは何故かを知ってもらう）
- ②海洋ごみになっていた灯油のボトルを手で割る体験（紫外線を浴びたプラスチックがいかに脆いかを知ってもらう）
- ③海岸の砂からマイクロプラスチックを抽出する体験（マイクロプラスチックがどういうものなのか実物を見て知ってもらう）

●良かった点

- ・マインドマップと体験パートのバランスが良く、いつも以上に楽しく学ぶコンテンツに仕上がったので、最後に「自分たちに何が出来るか」を考えると子ども達の集中力が続いていた。
- ・学び以外の目的としても体験パートは効果的だった。今回は知らない子ども同士の参加だったが、体験を通して徐々に打ち解けていく様子が見えたとし、最初はつまらなそうな雰囲気だった子どもも徐々に楽しく学んでいる様子がうかがえた。

●改善点

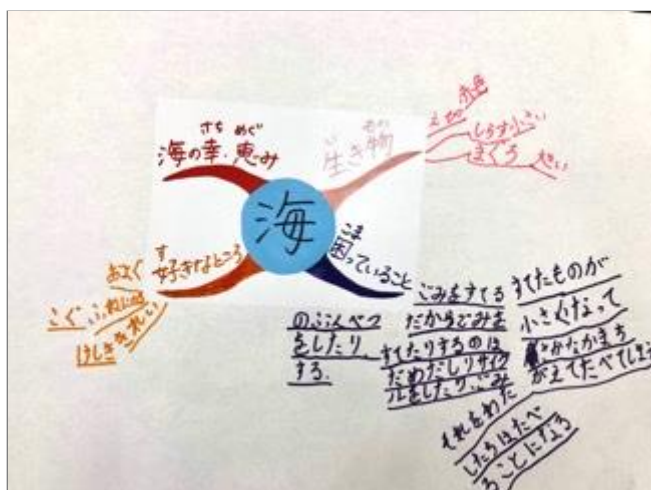
- ・何人かの子どもに書いたマインドマップを説明してもらったのだが、人前で（かつ知らない子ども達の前で）発表することに抵抗があったようで、嫌がったり、緊張したりする様子が今回は顕著に見られた。講師によって発表してもらう時の子どもへの関わり方に差があるので、今後は子どもがマインドマップに書いたことを説明しやすいように、講師側が質問してそれに答えてもらうようなかたちで、発表のハードルを少しでも下げるような工夫を徹底していきたい。

●所感（サイト掲載内容）

「海洋ごみ」について学びました。今回はこれまでのワークショップよりも体験要素が多かったので、より楽しみながら最後まで学んでもらうことができました。イワシのフィギュアを使った体験では、プランクトンとマイクロプラスチックの区別なく、イワシが体内に取り込んでしまうのは何故かを知ってもらいました。海洋ごみになっていた灯油のボトルを手で割る体験では、紫外線を浴びたプラスチックがいかに脆いかを知ってもらいました。海岸の砂からマイクロプラスチックを抽出する体験ではマイクロプラスチックがどういうものなのか実物を見て知ってもらいました。

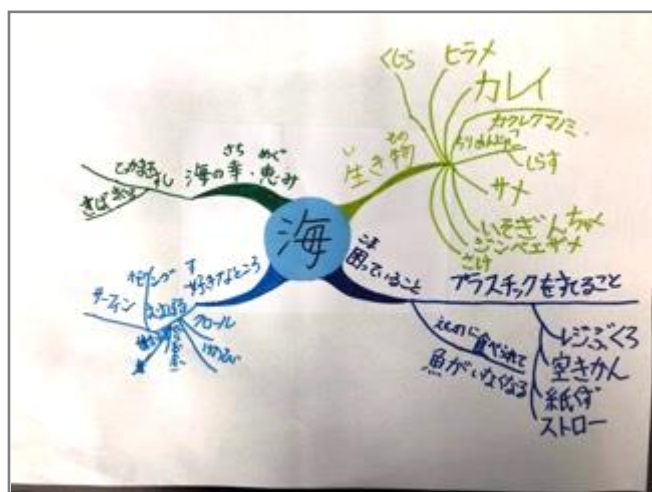
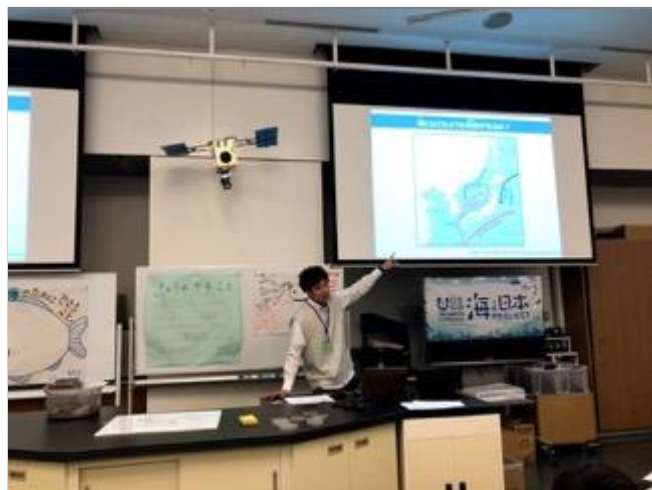
【開催日時】 2020年1月13日（午前の回）

【開催場所】 科学センター・ハチラボ



【開催日時】 2020年1月13日（午後の回）

【開催場所】 科学センター・ハチラボ



【開催日時】 2020年2月22日

【開催場所】 四十八漁場羽田流通センター→四十八漁場武蔵小杉店

【参加学年】 小学1～3年生

【参加人数】 子ども7名、大人7名

【実施時間】 09:00～15:30

●特徴・工夫点

- ・はじめてのツアー型企画ということで、移動中も含め安全面や子供たちへの声がけに配慮
- ・流通センターでは冷蔵庫の中での見学となるため、体調面に考慮すると共に、全員が丸のままの未利用魚に触れるように導線を組んだ。
- ・流通センターから店舗に届いた魚を捌く様子を見せたり、海鮮丼を子供たちに食べさせることで、食の裏側の流通の部分を子供たちに印象付けることができた。

●良かった点

- ・従来のマインドマップに加え、現地での体験、居酒屋での魚解体など、非常に濃い世界観を作ることができたので、子供たちの深い学びに繋げることができた。
- ・普段流通に乗らない「未利用魚」と呼ばれる珍しい魚を子供たちに数多く紹介することが出来、「漁業の範囲の魚」に留まらない海の様々な魚を紹介することができた。
- ・四十八漁場の店舗スタッフや流通センターの職員を巻き込んでの実施であったが、大人数ながらもチームワーク良く分業することが出来、スムーズに事故なく進行することができた。

●改善点

- ・集合場所から見学場所まで片道一時間半かかる場所であったため、安全や下見にカロリーを使った。次回からもう少し募集エリアを絞る必要あり
- ・事前にアレルギーの調査は行ったものの、そもそも「魚があまり好きでない子供」がおり、海鮮丼を好評を得ない場合があった。メニューを選べるようにするか、検討の必要あり
- ・駐車場や導線など、確認事項が多く、今後はもう少しフレームワーク化していきたい。

●所感（サイト掲載内容）

今回は、ウェビングマップを使ったワークショップに加え、四十八漁場の魚仕分けセンターと店舗を回り、流通がどういふものを理解ながら海洋資源の持続可能性について学ぶアクティブ・ラーニング・ツアーを開催。仕分けセンターでは、普段食卓や海水浴では出会えない魚（未利用魚）に子どもたちも大興奮！センター長の話聞いてどんな魚かを学んだり、実際に触ってみたりしました。それから、四十八漁場の店舗では料理人が未利用魚（どんこ）を豪快に捌く様子を見学し、身を乗り出して興味津津で見っていました。今回のツアーの思い出が、海を大切にす意識や行動に繋がっていけば嬉しいです！

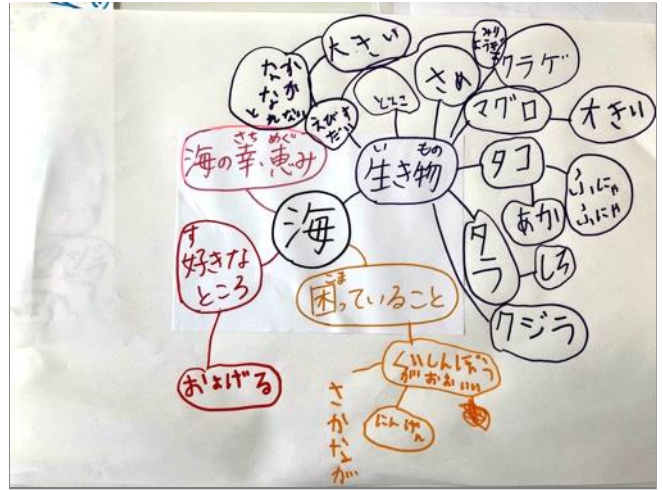
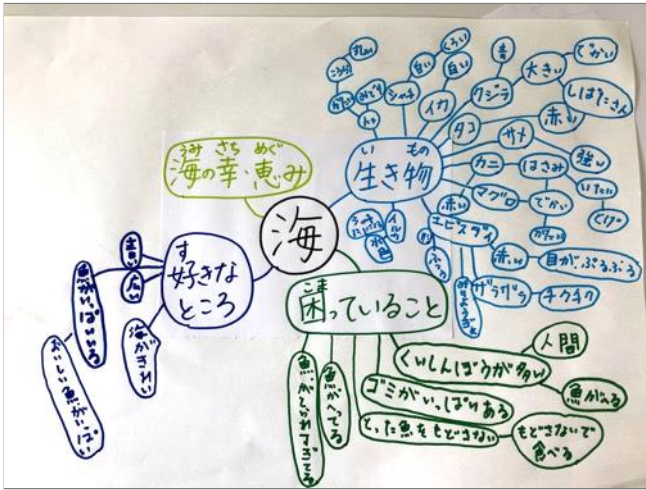
【開催日時】 2020年2月22日

【開催場所】 四十八漁場羽田流通センター→四十八漁場武蔵小杉店



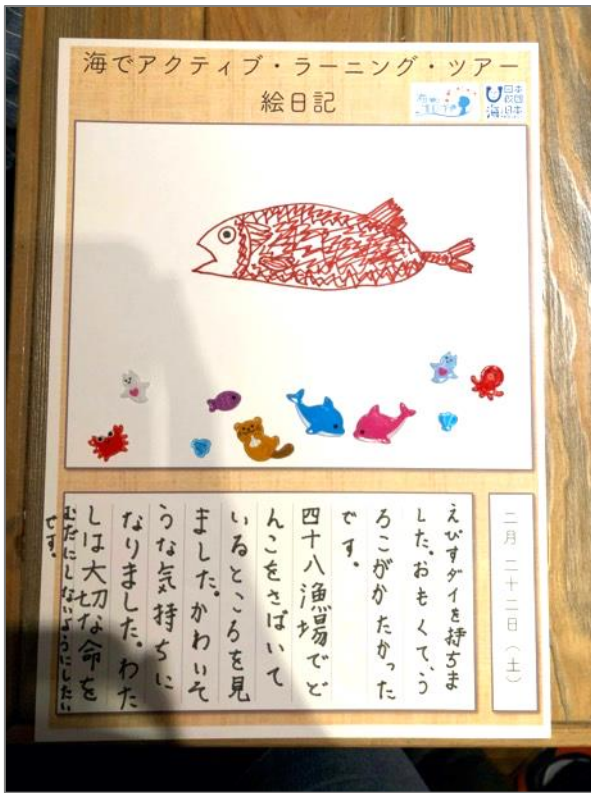
【開催日時】 2020年2月22日

【開催場所】 四十八漁場羽田流通センター→四十八漁場武蔵小杉店



【開催日時】 2020年2月22日

【開催場所】 四十八漁場羽田流通センター→四十八漁場武蔵小杉店



2020年度以降に向けての方針

<2019年度の事業を振り返って>

多くの方々のご協力と応援を頂きながらワークショップやアクティブ・ラーニングの教育活動を行うことができました。対象となる子ども達の学びや気づきはもちろんですが、講師として臨んだ本実行委員会のメンバーにとっても、自らの仕事の意義を再確認する良い機会となりました。

本国における水産業や第一次産業の持続可能性は非常に重大な局面を迎えています。生産者や販売者側からのアプローチだけでは現状の課題解決速度は到底追いつきません。この問題の解決に向けて非常に重要な役割を担う「消費者」の価値判断や問題意識の刷新に向けて、生産と消費を繋げる役割を持つ私たちがより積極的に啓蒙活動に従事していかなくてはならないという使命を改めて感じることができました。

幸いにも、この度のワークショップを高く評価していただいた団体から追加開催の要請も複数いただいております。また、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった会等も考慮し、2020年度以降は本実行委員会幹事企業であるエーピーカンパニーの教育事業として独立運営していく方針を固めました。

<2020年度の展望>

2019年度の一連の活動を通して得たノウハウやコネクションを活かし、この活動を継続していきます。首都圏の学童だけでなく、その親御さんや生産地域の方々に向けたワークショップや交流の機会も創造し、まずは生産と消費の間にある壁を取り除くことを目標に活動していければと考えております。

